



# 校報 絆

(きずな) <令和4年12月号>

<合言葉>「みんなでつくる みんなの“安小”」

<めざす学校の姿>

子供たちが自慢したくなる学校

家庭や地域から信頼される学校

活力ある地域コミュニティづくりに貢献する学校

紀の川市立安楽川小学校

令和4年12月1日

文責:校長 原 寿宏

## な な な な な なにごと 為せば成る 為さねば成らぬ 何事も

今年もあと一ヶ月、何かと気忙しい季節となってまいりました。

11月は学校開放月間ということで、初めての取組として、授業参観に合わせて、コミュニティーセンターで活動する“とけい草”の皆さんの作品(書道、パッチワーク、和服の洋服へのリフォーム、絵手紙など)を多目的室に展示させていただきました。いずれの作品も思いのこもった力作ばかりで、皆さんの“生涯学習”への“熱量”が伝わり感動いたしました。また、絵手紙作品には、つながりクラブの児童たちが手話で取り組んでいる曲「花束をあなたに」を、野趣溢れる筆致の絵と書で描いてくださった作品もありました。



さて、あるテレビ番組のこと。佐賀県に住む海苔漁師の徳永義昭さんという方が、ピアノ経験のある人なら誰もが知っている超絶技巧ピアノ曲、フランツ・リスト作曲「ラ・カンパネラ」を、楽譜も読めない全くの未経験者でありながら、一つ一つ音を拾い指に記憶させる方法で練習し続け、憧れのピアニストフジコ・ヘミングの前で演奏する夢を叶えたというものでした。

フジコさんの弾く「ラ・カンパネラ」を聞いて、「ああ…この曲を弾いてみたいな」との素朴な思いからの始まりだったそうです。ピアノ講師をしている妻は、「この曲を弾きたい」という夫の無謀な夢を、「バカなの? 絶対に無理!」と思ったといいます。しかし、一度こうと決めたら何事も徹底してやるのが、徳永さんの性格。「ラ・カンパネラ」を演奏するには、4073カ所の鍵を叩く必要があるといいます。4~5秒程度をワンフレーズに区切り、毎日、右手で2時間、左手で2時間、両手で4時間、計8時間。それを10年間続け、途中、骨折するアクシデントにも、ギブスを巻かず練習に励みマスターしたそうです。

演奏を聞き終えたフジコさんは「ブラボー!」と喝采し、「コンサートの前座として大観衆の前でも演奏して」と誘いました。徳永さんは「他人に聞いてもらうために練習していたのではない」と固持したそうですが、フジコさんの言葉に背を押され、それに応え見事に演奏をやり切ったというものでした。その苦労は想像もできませんが、“為せば成る、為さねば成らぬ何事も”、という言葉があるように、できそうもないことでも、強い意志をもって、その気になってやり通せば必ずできるということに改めて気づかせてもらった、まさに“衝撃映像”でした。フジコさんの前で「ラ・カンパネラを弾きたい」という素朴な思いに駆られ始めたピアノ、それも独学で、生涯学習の最たるものです。

人はいくつになっても学び続けることが大切だということですね。見習いたいものです。

### ◆桃源郷駅伝競走大会◆

11/19(土)、絶好の駅伝日和の下、学校を代表する児童たちが桃源郷運動公園外周コースを駆け抜けました。並み居る強豪に食らいつき、女子チームは7位入賞を果たしました。また、男子チームも入賞は逃しましたが、最後まで一生懸命に全力を出し切りました。



### ◆食育セミナー◆

6年生が、「地場産物を使った給食レシピを考える」授業の一環で、生産者の方から野菜作りへの苦労や工夫、熱い思いなどを伺いました。



### ◆福祉について学びました!◆

4年生が「住みよい暮らしを考える」授業の一環で、障害ある人の生活について学びました。また、車椅子を押す体験も行いました。より障害者理解が進めばと思います。



